



「現場力」を身につける。  
教室からフィールドへ――



東北大学公共政策大学院  
SCHOOL OF PUBLIC POLICY, TOHOKU UNIVERSITY

2021 大学院案内

# 危機の時代にこそ

東北大学  
公共政策大学院院長

飯島 淳子



私たちは現在、危機に直面しています。“人口減少社会”や“地方消滅”といった言葉で覆われた日常的な閉塞感に加え、世界的な規模に広がった見えない不安に襲われています。このような現状を前に、「私」は何をすべきか、「私たち」は何をすべきか、「みんな」は何をすべきかを考え、動くこと、そのためにとるべき方法を学ぶことは、公共政策大学院の存在意義の一つではないかと思います。

東北大学公共政策大学院は、2004年の開設から16年目を迎えました。開設に向けた準備のなかで、諸外国における公共政策分野での高度職業人材の養成のあり方をも参考にしながら、政策の調査・提言を集団作業で行う公共政策ワークショップという教育方法に挑戦する決断をいたしました。ワークショップは、学生と教員による16年間の（そしてこれからも続く）試行錯誤の結晶であるとも言えます。

毎年、4つのワークショップのチームごとに、仙台・宮城・東北の現場に密着しつつ、日本全体、そして世界を見据えながら、個別具体的に課題を抽出し、その解決に向け、実効性を備えた政策提言を行っています。中央省庁から派遣された実務家教員が自らの経験のなかで獲得してきたものを余すことなく伝えること、研究者教員もまた自らの専門分野に抛りつつ現場の生々しい課題と格闘すること、を通して、実務と理論の協働をわずかなりとも実現しているのではないかと自負しています。

そして今年度は一つの転機を迎えようとしています。東北大学全体の方針として授業をオンラインで実施することが4月に入ってから決定されました。それから12日後のオンライン・オリエンテーションを、新入生と教職員全員の力によって成功させたことは、安堵と喜びと（少しの）自信をもたらしてくれました。授業も始まりました。特にワークショップでは、M2学生の心強い助けを借りつつ、このような時ならではのあり方を真剣に、前向きに模索し続けていきます。刻一刻と変化する状況の中で私たちの挑戦の過程をウェブサイトでもお知らせしますので、是非ご覧いただけますと幸いです。

現在の危機は、2011年3月11日の東日本大震災のそれとは異なる面もありますが、被災地に位置する大学として、深い苦しみを今なお残すこの試練をくぐり抜けてきたことは、危機に立ち向かう大きな力になりうると信じています。この拙い挨拶を希望に満ちた言葉で書き換え、東北大学公共政策大学院の新たな一步を踏み出せるよう、ともに、そしてそれぞれに力を尽くしていきたいと思います。志ある皆さんと来年4月に片平キャンパスでお会いできることを願っています。



## 「公共」のプロフェッショナルをめざして

# 3つの特長

特長  
1

### 実践的なワークショップ

東北大学公共政策大学院の中核をなす「公共政策ワークショップ」では、現場を幅広く体験・観察し、現場の声を踏まえて、具体的な政策提言をつくりあげていきます。

特長  
2

### 高度で多彩なカリキュラム

法学、政治学系の科目にとどまらず、経済学、さまざまな政策分野に関する演習など、高度で多彩なカリキュラムを提供しています。

特長  
3

### 少人数制によるキャリア形成支援

研究者教員、実務家教員が受け持ちの学生に対して、学習、進路など、きめ細かく相談・指導に当たります。

#### 2年間で修了

標準的な修了年限は2年間ですが、

- 実務経験を有し、特に優秀な成績を修めた学生は、1年間での修了も可能。
- 社会人学生で、仕事との両立など一定の要件に該当する場合には、「長期履修学生」として、最長で4年間までの在学が可能。



修了者には「公共法政策修士(専門職)」の学位を授与

## Contents

|                             |    |
|-----------------------------|----|
| 院長あいさつ .....                | 02 |
| 3つの特長 .....                 | 03 |
| 【特長1】 実践的なワークショップ .....     | 04 |
| 2020年度 公共政策ワークショップI .....   | 06 |
| 【特長2】 高度で多彩なカリキュラム .....    | 08 |
| 教員紹介 .....                  | 10 |
| 【特長3】 少人数制によるキャリア形成支援 ..... | 12 |
| 座談会 公共政策を学んで .....          | 16 |
| さまざまなフィールドで活躍する修了生 .....    | 19 |

|               |    |
|---------------|----|
| 就職・進路関係 ..... | 21 |
| 入試関係情報 .....  | 23 |

パンフレット内のQRコードのリンク先を参照頂ければ、  
詳細な情報をご覧いただけます

特長  
1

## 実践的な ワークショップ

# 公共政策ワークショップ

—— 東北大学公共政策大学院の「真髄」 ——

### POINT

「公共政策ワークショップ」は、東北大学公共政策大学院の「代名詞」とも言える中核的な演習科目です。政策は、理論的側面からの精緻な組み立てが必要ですが、同時に現実の社会で有効に作用するものでなければなりません。「現場重視」は、我々が最も大切にしている教育理念の1つです。



## 公共政策ワークショップⅠ(1年次必修)、ⅡA・ⅡB(2年次必修)

1年次の「公共政策ワークショップⅠ」(通年12単位)では、中央省庁、地方自治体などの協力を得ながら、それらの機関が直面する政策課題に対して「政策提言」をまとめていきます。例年概ね4つのプロジェクトが設定され、それぞれ7、8名程度の学生が所属します。プロジェクト運営は「学生主体」とし、実社会と同様、各学生が役割、責任、主体性を持ちながら、チームとして行動し、成果を出すことが求められます。実務家教員・研究者教員の双方が指導に当たり、「机上の空論」にならないよう、行政機関等への現地調査を繰り返しながら検討を深め、提言内容をまとめていきます。

7月と12月の2回開催される報告会は、文書作成能力、プレゼンテーション能力に加え、真摯で白熱

した質疑応答を通じて応答、説明の能力を磨く格好の機会となります。

また、2年次の「公共政策ワークショップⅡA・ⅡB」(計8単位)は、東北大学公共政策大学院での「総決算」となります。各学生が自ら研究テーマを設定し、教員の指導を受けながら個人で研究を進め、成果を「リサーチ・ペーパー」としてまとめます。現地調査の重視や政策提言を内容とする点は、「公共政策ワークショップⅠ」と同様です。



東北大学大学院 ワークショップ報告会

**公共政策院生が提言**

東北大学公共政策大学院の学生によるワークショップ報告会が、2019年12月27日(金)仙台市青葉区の東北大学半蔵キャンパスで開かれ、人口減少対策やまちづくりなど、4つのテーマについて、1年次から2年次までの学生が、研究の成果を披露した。

報告会には、約60人が参加し、各グループは、外国人旅行者に魅力を伝えるための観光地づくりや、地域の活性化をテーマにした研究の成果を発表した。

報告会では、学生が作成した「政策提言」が披露された。提言は、人口減少対策やまちづくり、観光地づくり、地域の活性化など、4つのテーマについて、1年次から2年次までの学生が、研究の成果を披露した。

報告会では、学生が作成した「政策提言」が披露された。提言は、人口減少対策やまちづくり、観光地づくり、地域の活性化など、4つのテーマについて、1年次から2年次までの学生が、研究の成果を披露した。

**人口減少やまちづくり 研究の成果披露**

体験してもらう「農泊」などを研究し、農泊は全国約500地域に広まっている。外国人旅行者に魅力を伝えるための観光地づくりや、地域の活性化をテーマにした研究の成果を発表した。

報告会では、学生が作成した「政策提言」が披露された。提言は、人口減少対策やまちづくり、観光地づくり、地域の活性化など、4つのテーマについて、1年次から2年次までの学生が、研究の成果を披露した。

出典:2019年12月27日 河北新報社記事

# 公共政策ワークショップ I の進め方

1

## 基礎知識の習得

出身学部の違いなど、学生のバックグラウンドは多様。  
まずは、調査研究の基礎となる専門知識を習得します。

2

## 現地調査の開始、課題の発見と整理 調査研究の方向性を検討

机上の検討だけでなく、実際に現地に赴き、関係者の生の声を  
聴くことで、政策の現状や課題をリアルに捉えます。



3

## 報告会 I（7月下旬）

プロジェクトの進捗状況と今後の進め方についての報告会。  
学生同士、教員との質疑がブラッシュアップのヒントになります。



4

## 政策提言に向けた調査研究の深化 提言内容の具体化・「ツメ」の作業

引き続き、現地ヒアリングを繰り返しながら、  
リアリティのある政策提言を追求していきます。



5

## 報告会 II（12月下旬）

公共政策ワークショップ I 最大の「やま場」。提言先等の方からも  
コメントをいただき、提言のクオリティに磨きをかけます。



## 最終報告書の完成・提言先への説明・送付



## 2020年度 公共政策ワークショップ I

「公共政策ワークショップ I」は、例年、概ね4つのプロジェクトから構成され、1年次の学生はそのいずれかに所属します。研究テーマは毎年度設定されますが、これまで、東日本大震災からの復興、農業振興、地域活性化、環境・エネルギー、外交など多岐にわたるプロジェクトに挑んできました。

ここでは、本年度まさに進行中のプロジェクトについて紹介します。

過去のワークショップのプロジェクトのテーマは、東北大学公共政策大学院のウェブサイトを参照して下さい。



### プロジェクト A

## 人口減少社会に対応したまちづくり法制に関する研究 II

### 人口減少を前提としたまちづくりの方策を東北から発信



主担当

教授 島田 明夫

1980年東京大学経済学部卒、2007年東京大学博士(工学)、1980年旧建設省入省、住宅地政策、環境政策、経済政策、産業政策、在外勤務(在英大使館)、防災対策などに従事し、関東地方整備局用地部長、四国地方整備局次長を勤めた。その後、東京大学大学院法学政治学研究科客員教授、政策研究大学院大学教授を経て、2010年8月より本学教授、2014年4月よりバーマネット教員。

2018年度に引き続いて、「人口減少社会に対応したまちづくり法制に関する研究」をテーマとしてワークショップを行っています。

国立社会保障・人口問題研究所の2018年地域別人口推計によると、今後、地方圏を中心に人口減少が急速に進行することが見込まれている中で、東北の地方都市においては、特に人口減少が急速に進んでおり、市街地の低密度化が進行しております。また、公共施設等のインフラの維持管理のための費用が過大となることが想定され、公共交通の維持ができなくなることにより、住民が日常生活

を過ごす上での移動に困難が生じる可能性が目の前の課題になりつつあります。

このため、プロジェクトAでは、コンパクトシティの実現に当たって、少子高齢化の中においても、そこに住む地域住民のより良い居住環境の実現、歴史や伝統文化、自然環境と共生しながら農林水産業を含めた地域産業とともに生きてゆくことができる住みよいまちづくりを進めるための法制度の在り方の提言に取り組んでおります。



### プロジェクト B

## 横手市における地域包括ケアシステムの構築及び地域共生社会の実現に向けた更なる取組の推進に関する研究

### 学生ならではの大胆な発想で地域福祉の課題解決に向けた政策を考える



主担当

教授 橋本 敬史

1993年厚生省入省。薬務局(現 医薬・生活衛生局)、大臣官房、社会・援護局、保険局等での勤務のほか、富山県庁、内閣府沖縄振興局等に出向。政策企画官(情報化担当)、老健局介護保険計画課長を経て、2019年8月より現職。

我が国では、少子・高齢化や人口減少が進む中で、高齢者への包括的な支援・サービス提供体制を確保する「地域包括ケアシステム」の構築とともに、障害者、子ども、生活困窮者の支援にもこの理念を普遍化し、制度の垣根を超えて住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域を共に作っていく「地域共生社会」の実現に向けた取組が進められています。これらは、地域の実情に応じ、住民による支え合いと公的支援が連動した「まちづくり」と言えます。

プロジェクトBでは、本大学院とパートナーシップ協定を締結している秋田県横手市をフィールドとして、これらの施策をいかに推進していくかを研究しています。横手市の福祉に関する各種計画やデータを基に、現地ヒアリングや先進自治体の事例研究等を行い、学生の眼から見た大胆な発想で、東北地方、さらには我が国全体の地域福祉の推進にも貢献できるような政策の提言に向けて、チーム一丸となって取り組んでいます。



### 人間の安全保障を生かせ!!「誰一人残さない」社会の実現のために!!



主担当

教授 今西 淳

1993年外務省入省、英国研修後、在南アフリカ大使館へ。その後、国際協力局（JICA担当）、欧州局、名古屋COP10準備事務局を経て、国連代表部で勤務。復興庁出向後、本省危機管理調整室長、儀典総括官を経て、2019年11月より現職。

今日ほど、「人間の安全の保障」のアプローチが求められている時代はないのではないか。

コロナウイルス等の感染症、気候変動、防災、難民、平和構築、国境を越え国際社会が共同して対処しなければならない問題は山積しています。

これらの地球規模の課題の効果的な対処にあたって、人間を中心に据え、各課題の有機的な関係に着目し、包括的・分野横断的に対処することが重要であります。また、そのために国、専門機関、地方自治体、NGOの様々な主体が参加し、その強みを生かし、連携して対応することが効果的です。

政府は人間の安全保障を外交上の重要な柱と位置づけ取り組んでおります。が、2012年の国連総会決議で共通理解を得た後、人間の安全保障は、国際社会での大きな展開の様相は見られません。

本件ワークショップは、次世代を担う学生ならではの視点で、「誰一人残さない社会」を実現するために、人間の安全保障の強み、そのアプローチの有効性を検証し、その更なる推進について提言を打ち出すことに取り組みます。



### 新しい手法で農業政策から地方の産業政策、地域政策をデザインしよう！



主担当

教授 仙台 光仁

1991年農林水産省入省。主に農業、水産業、食品産業、国際関係の業務に従事。長崎県諫早市、在ロシア日本国大使館、欧州連合日本政府代表部、スポーツ庁を経て、2018年より現職。

今、地方は、様々な課題に直面しています。どう変革すれば地域を振興できるのか、そのために必要な政策は何か？を考えるのが本プロジェクトの大目的です。テーマはどの地域にもある農林水産業に絞りました。まずは農林水産業の成長産業化という国の政策、農業の担い手育成等を追求する既存政策の有効性等についてゼロから検証しています。現在（5月時点）、新

型ウイルスの影響でITや情報通信を用いた「外に出ない」新スタイルで活動していますが、逆に「ピンチをチャンスに」とばかりに、いかなる状況下でも仕事ができる力を身に付けようと努力しています。後半は、スマート農業などの現場に足を運び、最前線で活躍する生産者、自治体に体当たりし、返す刀で省庁を訪れて現場の視点を武器に政策へ議論を挑む予定です。国と地方の両方を視野に入れた欲張りなテーマについて、ビッグデータも活用したハイブリッドな研究から、新しい政策が生まれることを期待しています。



在学生  
から

### 解のない社会における挑戦

東京都出身  
国際基督教大学・教養学部卒業 山本麻莉絵（平成31年度入学）

来るべき将来に向けて必要とされる能力は何か。そんな問いが頭の中をよぎる日々です。未曾有の危機により社会はより不透明になってくると言われる昨今ですが、その中で私たちは自分の選択を1つの解として歩みを進めていく必要があります。当大学院では、研究活動、インターンシップ、留学など、選択できる経験は幅広く、主体的に行動すれば背中を押してもらえる環境が揃っています。自分の姿勢次第で、自身の経験の幅を広げられる環境に身を投じ、一緒に精進していきましょう。



特長  
2

高度で多彩なカリキュラム

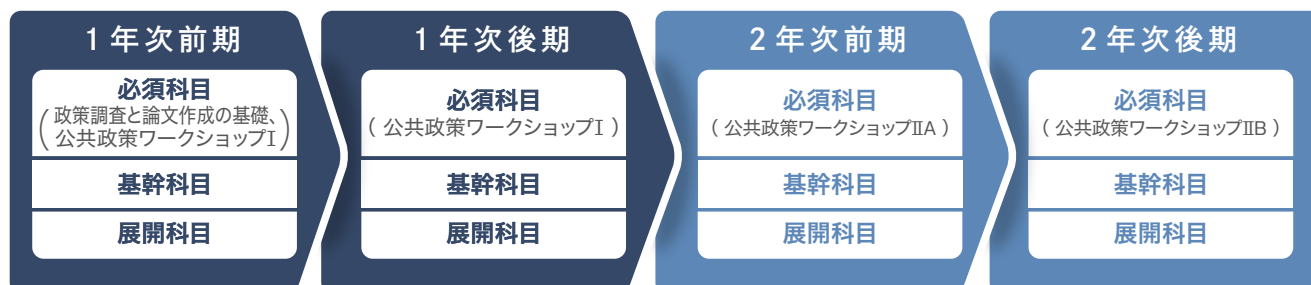
## 実践的なアプローチを裏打ちする 確かな理論の習得

### POINT

「現場重視」と両輪となるのが公共政策に関する「確かな理論の習得」です。理論的な裏付けのない単なるアイデアの寄せ集めでは「政策」とは呼べません。このため、法学、政治学、経済学など多角的なアプローチを身に付けるための履修科目を用意しています。

## カリキュラム

東北大学公共政策大学院のカリキュラムは、「必須科目」、「基幹科目」、「展開科目」より構成されています。修了には、必須科目・基幹科目を含めて48単位以上の修得が必要です。



## 必須科目

「必須科目」は、「公共政策ワークショップI (12単位)」及び「公共政策ワークショップIIA (2単位)」「公共政策ワークショップIIB (6単位)」並びに「政策調査と論文作成の基礎 (2単位)」です。

このうち「政策調査と論文作成の基礎」では、公共政策大学院の学修と研究に必要な調査及び論文作成のための基礎的な技法を習得します。論理的議論の組み立て方や論文のフォーマット、効果的なプレゼンテーションの実践、政策情報の収集法、統計データの作成と解釈、法的枠組みを把握するための方法、調査の成果を報告書や論文としてアウトプットするための方法などを学びます。

すべての学生が円滑に履修を進められるよう、法学部出身の学生のみならず、理科系を含めた他学部出身の学生にも十分に配慮した教育を行っています。





## 基幹科目

学生は1年次より、「必須科目」とは別に、「基幹科目」の諸科目を履修することが求められます。「基幹科目」は法学、政治学、経済学などの分野からバランスよく構成され、このうち18単位が選択必修となります。

「基幹科目」に配当されている授業は可能な限り学際的であることが目指され、複数の法領域・政策領域に関わる問題を多角的な学問領域から分析するように配慮されて

います。科目によっては、研究者教員・実務家教員との連携、学外の実務家による講演なども交えて行われます。

理論と実務の双方の観点から公共政策の基礎的・体系的な知識を学習する授業、公共性についての理解を深め、現象の背後に存在する理念的・価値的な問題についての洞察力を涵養することを目的とした公共哲学に関する授業など、多彩な授業が開講されています。

## 展開科目

「必須科目」及び「基幹科目」の履修と並行して、学生は必要に応じて、より高度な社会科学の専門知識を習得し、または理科系の諸学を含めたより広範な領域にわたる政策学について学びます。なお、「関連科目」として会計大学院の授業を履修することもできます。

### 東北大学公共政策大学院科目一覧（令和2年度実績）

#### 1 必須科目

- 公共政策ワークショップⅠ  
・プロジェクトA・プロジェクトB  
・プロジェクトC・プロジェクトD
- 公共政策ワークショップⅡ A・B
- 政策調査と論文作成の基礎

#### 2 基幹科目

公共政策基礎理論／公共政策特論／行政の法と政策  
租税制度論／政策税制論／国際社会と各国法秩序  
グローバル・ガバナンス論／経済学理論／財政学／地方自治法  
社会福祉政策／防災法／地方自治政策体系論／政策評価論  
政策分析の手法／経済と社会／政策体系論／公共哲学

#### 3 展開科目

租税法原論／都市環境政策論演習／法と経済学／環境法／実務労働法／社会保障法／経済法／ジェンダーと法演習  
国際関係論演習／現代政治分析演習／比較政治学演習／ヨーロッパ政治史演習／西洋政治思想史演習／日本政治外交史演習  
防災政策論演習／国際政治経済論演習／アジア政治経済論演習／開発協力論演習／農林水産政策演習／環境法概論  
ヨーロッパ法政策特論／中国政治演習／環境・コミュニケーション演習／経済産業政策特論／比較公共政策  
政策過程の歴史分析／地域福祉政策演習／地方自治概論／震災復興における政治・行政／日本政治演習  
Seminar on International relations in the Middle East／日本外交政策入門／日本外交政策演習

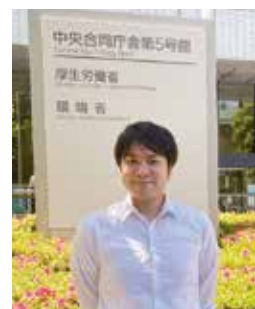
※上記科目は、令和2年度に開講している科目です。今後変更されることがあります。

### 在学生から

#### 働きながら大学院を修了するという選択

宮城県出身  
東北大学法学部卒業 松田 洋平（平成31年度入学）

私は1年時に民間就活及び官庁訪問をし、今は厚生労働省で働いています。東北公共は夏期休業中も集中講義が充実しており、就職活動が忙しい前期は履修登録を軽くするなど、柔軟な履修が可能でした。充実した環境及び先生方のご理解のお陰で、大学院を修了するために残すはリサーチペーパーだけとなり、指導教員にメールで相談しながら東京で執筆しています。様々な理由で1年時での就職活動を考える人がいるかと思いますが、東北公共の環境でならその思いを実現することが出来ます。



# 教員紹介

## 国際法

理事・副学長・教授 植木 俊哉

1983年東京大学法学部卒業。東北大学法学部助教授を経て、1999年より東北大学法学部教授。2004年から2006年まで東北大学大学院法学部研究科長・法学部長、2006年から東北大学理事・大学院法学研究科教授、現在に至る。専門分野は、国際法・国際組織法。



## 充実した教育内容の大学院

東北大学の公共政策大学院は、2004年に国立の公共政策大学院として最も早く開設され、少人数の学生に対する密度の濃い充実した教育内容を特長としています。皆さんは、「公共政策ワークショップ」等を通じて、単なる知識や技術にとどまらない政策立案過程でのさまざまな課題に自ら挑戦し、問題の解決に向けて取り組む専門的能力を身につけていくことができます。「公」の課題に挑戦する意欲に富んだ皆さんの入学を心からお待ちしています。

## 中国近代政治史、現代中国政治

教授 阿南 友亮

1972年東京生まれ、慶應義塾大学法学部卒。慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻博士課程単位取得退学。博士（法学）。2011年に東北大学赴任、2014年より現職。専攻は政治学（中国政治、日中関係）。



## 地に足のついた解決策を編み出そう

日本が抱える行政課題は多岐にわたります。公共政策大学院での学びの大きな特徴は、それらの課題の中身について分析することに留まらず、具体的な解決策についてじっくり考察し、提案することです。ぜひ本学で仲間たちと一緒に日本が必要とする解決策についてトコトン考え、議論してください。

## 比較政治学、政治経済学、国際ボランティア論

教授 岡部 恭宜

東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士（学術）。東京大学社会科学研究所、JICA研究所を経て2015年4月より現職。専攻は比較政治学、国際ボランティア論。



## 多様なレンズから何が見えますか

公共政策を考察するための視点は様々です。実務はもちろんのこと、政治学、法学、経済学、社会学といった複数の学問から焦点を当てることも必要ですし、グローバル化の時代、国際的な視点も欠かせません。研究対象についても、中央や地方の政府の政策のほか、企業、NPO、市民団体といった非国家アクターの戦略や行動に目を向けることが求められます。本学はこうした多様なレンズを用意しています。是非覗いてみて下さい。

## 政治思想史

教授 鹿子生 浩輝

1971年福岡県生まれ。西南学院大学法学部卒、九州大学大学院法学研究科政治学専攻博士課程修了。博士（法学）。2017年4月より現職。専門分野は政治思想史。



## 実践的判断のための哲学的探求

私は主に「公共哲学」という科目を担当しています。この科目は、公共政策を提言する際の哲学的基盤に関心を寄せる分野です。実践的な政策は、そもそものような政治的価値に基づいているのか、その価値判断それ自体が適切なのか。こうした根源的な問題の自覚がなければ、具体的な提言も無益となるかもしれません。公共哲学は、こうした理論的・哲学的側面に正面からアプローチする学問であり、これこそ大学院で探求されるべき知的営為の一つだと思います。

## 行政法

教授 北島 周作

東京大学法学部卒業。東京大学大学院法学政治学研究科博士課程修了。博士（法学）。成蹊大学法学部准教授、東北大学法学研究科准教授を経て、2015年12月より現職。専攻は行政法。



## 地道な基礎トレーニングの必要性

公共政策大学院に入ってこられる方は、公務員となって政策の企画立案をし、社会問題を解決したいという方が多いと思います。しかし、例えば、打つ練習、投げる練習だけでは野球はうまくならず、筋力トレーニングやランニングを必要とするように、政策を企画立案し、それを実施するためには、基礎となる理論や道具となる法律に関する理解を深めることが不可欠です。公共政策大学院でこうした基礎トレーニングを行ってくれることを期待しています。

## 地方制度（行政、財政、地域防災）

教授 木村 宗敬

東京大学法学部卒業。自治省（現総務省）入省後、自治大学校教授、消防庁地域防災室長、防衛省企画官等を経て、2018年8月より現職。



## 幅広い視野で内政・外政をみる

政策の定義をめぐり、「政策（ポリシー）」とは象のようなものである。（カニンガム）という有名な言葉があります（それを見れば、それと認識できるが、簡単には定義できないという趣旨）。

本院では、そうした複雑で深い政策の世界を把握できるよう、内政・外政全般にわたる制度論、実践論、フィールドワークなど多様なカリキュラムを提供しています。

こうした本院での経験は、皆さんのキャリア形成における大きな財産となるものと考えています。

## 国際関係論

教授 戸澤 英典

1966年岩手県生まれ。東京大学大学院法学政治学研究科博士課程単位取得退学。エッセン総合大学留学、EU代表部専門調査員、大阪大学法学部講師・助教授を経て2005年4月に東北大学助教授、2010年7月より現職。2014年から2016年まで公共政策大学院院長。



## 手づくりで進化・発展する大学院

日本では初めての試みであった「公共政策ワークショップ」を中心とする本大学院は、教員・学生一体となって手づくりで練り上げ、今なお自らを進化・発展させていると自負しています。少子高齢化や格差社会の進行による諸問題に直面し、さらに日本をとりまく国際状況はますます険しさを増していますが、この難しい時期だからこそ、望ましい将来像を構想し具体的な政策・施策に練り上げ実現していく、そんな人材を数多く輩出すべく力を尽くしたいと思っています。

## 行政学

教授 西岡 晋

1972年東京都生まれ。1998年早稲田大学社会科学部卒業。早稲田大学大学院政治学研究科博士後期課程単位取得退学。金沢大学法学部准教授、同教授を経て、2015年10月より現職。専攻は政治学・行政学。



## 公共政策を考え抜く

公共政策とは、理想と現実のあいだのギャップであるところの「問題」を解決して、理想の社会に少しでも近づけるためのさまざまな取組のことを指します。社会には解決が求められている問題が溢れています。にもかかわらず、なぜ問題は放置されたままなのでしょう。問題を解決するためにはどうすれば良いのでしょうか。そもそも、「理想の社会」とはどのような社会なのでしょう。東北大学公共政策大学院と一緒に、そして徹底的に考えてみませんか。

## 国際法

教授 西本 健太郎

東京大学法学部卒業、東京大学大学院法学政治学研究科博士課程修了。博士(法学)。2019年8月より現職。専門分野は国際法・海洋法。



### 変化する時代の中で本質を見極めたい

「これまで通用してきた方法が、これからも通用するとは限らない。」少子高齢化による社会の変化や、経済のグローバル化による産業構造の変化といった様々な変化の中で、そうした局面は今後増えていくことでしょう。変化する時代の中では、過去のやり方にとらわれず、表面的な新しさにも惑わされず、課題の本質を的確に見極めることが一層重要になります。東北大学公共政策大学院では一つの課題と徹底的に向き合うための場を用意して、皆さんをお待ちしています。

## 環境政策、環境法

教授 深見 正仁

1985年京都大学法学部卒業、環境庁入庁。滋賀県庁、経済企画庁、東北経済産業局、原子力安全基盤機構に出向。北海道大学公共政策大学院特任教授、原子力規制庁参事官、環境省秘書課長、環境省大臣官房審議官を経て、2017年から現職。



### 公共政策の担い手になる

公共政策って誰が行うのでしょうか？政治家や公務員がその主な担い手であることは確かですが、近年、SDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けて、企業も一般市民もそれぞれの活動を展開しています。経済、社会、環境の統合的向上のために様々な立場の人たちが連携しながら活動を行う、これが新しい公共政策の実施スタイルです。どんな立場でもいいのです、公共政策の力強い担い手になれるよう当公共政策大学院で学んでみてください。

## 日本政治外交史

教授 伏見 岳人

東京大学法学部卒業。東京大学大学院法学政治学研究科博士課程修了。2019年8月より現職。専攻は日本政治外交史。



### 日本の未来像を議論する

公共政策ワークショップは、地域社会や国際社会の直面する現在進行形の問題を取り扱う実践的な教育プログラムです。全国各地から集う仲間たちと共に、自治体や現場でのヒアリングを数多くこなし、多種多様な資料を読み込んで、チームとしての提言にまとめていく作業は、公共政策の担い手を志す人々には一生の財産と呼ぶべき貴重な経験になることでしょう。この仙台の地で、皆さんと一緒に日本の未来像を真剣に議論できることを楽しみにしています。

防災政策、事業継続計画(国土交通省出身)  
(本務:災害科学国際研究所)

教授(兼務) 丸谷 浩明

1983年東京大学経済学部卒。建設省入省後、内閣府防災担当企画官、京都大学経済研究所教授、(財)建設経済研究所研究理事(東京工業大学特任教授を兼務)、内閣府防災担当参事官、国土交通省国土交通政策研究所政策研究官を経て、2013年10月より現職。経済学博士。



### 東日本大震災の被災地で防災を学ぶ

東北大学は、東日本大震災の被災地の唯一の「総合大学」です。また、東北はまだ復興の途上で、問題が続いています。2015年3月に仙台で開催された「国連防災世界会議」で「仙台防災枠組」が採択され、世界から注目されている中、この地でぜひ防災を学びましょう。身近な防災の知恵から、若者の地域の防災での役目、そして防災から見た政府・自治体の政策枠組みまで、視野を広げてください。

## 労働法

准教授 桑村 裕美子

鳥取県出身。東京大学法学部卒業。同大学院法学政治学研究科助手を経て、2007年より現職。博士(法学)。



### 考え抜く力を

1つのテーマについて、いろいろな意見があることを学び、迷いながらも最後まで考え抜くという機会は、あまりないと思います。本大学院の様々な授業を受講しながら、1年単位の長期にわたり困難な問題に向き合い、仲間とともに一つの結論を導くという経験をしてみませんか。卒業の頃には、きっと大きな達成感があることでしょう。

## 租税法

准教授 藤岡 祐治

東京大学大学院法学政治学研究科法曹養成専攻修了、ハーバード・ロー・スクール(LL.M.)修了。東京大学大学院法学政治学研究科助教、財務省財務総合政策研究所研究官を経て、2018年4月より現職。専攻は租税法。



### 政策立案に必要な能力を養う

政策の立案は、関連するデータを集め、分析し、それに基づいて行う必要があります。また、その政策がどのような影響を与えるかも、ミクロ及びマクロの観点から考えなければいけません。東北大学公共政策大学院では、政策立案に必要な能力を授業やワークショップを通じて養います。国、公共の利益を高めるためにはどのような政策を立案すべきかという難しい課題について、熱意を持って取り組んでくれる方を全力でサポートします。

## 行政法

准教授 諸岡 慧人

東京大学大学院法学政治学研究科法曹養成専攻修了。東京大学大学院法学政治学研究科助教を経て、2020年4月より現職。



### 確かな基礎に根差した実践を

みなさんは、本大学院の目玉である公共政策ワークショップにおいて、経験を積んだ実務家教員の指導のもと豊かな実践の機会を与えられます。しかし、多くの研究者教員が運営に携わっていることもまた本大学院の魅力の一つであると私は考えます。講義や演習において、基礎に立ち返って熟考する機会をみなさんに提供できるよう、一研究者として努力します。仙台という魅力的な街で共に学びましょう。

## 公共政策大学院長

教授 飯島 淳子(行政法)

.... 2ページ

教授 島田 明夫(都市法政策(国土交通省出身))

.... 6ページ

教授 橋本 敬史(社会福祉政策(厚生労働省出身))

.... 6ページ

教授 今西 淳(外交政策(外務省出身))

.... 7ページ

教授 仙台 光仁(農林水産政策(農林水産省出身))

.... 7ページ

研究者教員

実務家教員



## 教員との近い距離感、 実務家教員も含めたキャリア形成支援

### POINT

公共政策ワークショップⅠ・Ⅱの指導教員が少人数の学生を受け持ち、学修面での指導だけでなく、社会に送り出すという視点からもきめ細かくサポートします。

### 明日の日本の担い手を送り出すために

東北大学公共政策大学院では、1学年30名の学生に対し、公共政策ワークショップ、基幹科目などの担当教員だけでも10名以上の教員がインテンシブに担当し、きめ細かな教育・指導を実施しています。また、学生一人一人にアドバイザー教員がつき、履修相談・進路相談を定期的に行っています。さらに、国家公務員総合職を志望する学生について

では、希望者を対象に官庁訪問を想定した面接指導を実施するなど、中央省庁出身の実務家教員の強みを活かした取組も行っています。

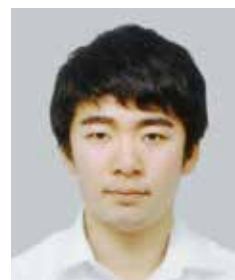
我々は、学修面だけでなく、修了後の進路に関しても、学生のよき相談相手、よき理解者、かつ、よき指導者でありたいと考え、教室の内外を問わず、日々学生と接しています。

### 在学生 から

#### 「理論」と「現実」の双方を学ぶ

東京都出身  
東北大学経済学部経営学科卒業 福元 遼太郎 (平成31年度入学)

学部時代は、経済学について座学を中心とし、理論的な内容を学んでいました。本学では、研究者教員による理論的な講義はもとより、実務家教員による講義や公共政策ワークショップを通して、社会について「理論」と「現実」の双方を学ぶことができます。こうして得られた知識や知見は今後のキャリア形成に大いに役立つと感じています。私の他にも様々な学部出身者がバックグラウンドを生かしながら、勉学に励んでいます。自分自身の視野を広げるうえで、本学は非常に恵まれた環境と言えます。



### キャンパスライフ Campus life



# 働きながら学び直しを 希望される社会人の方に



東北大学公共政策大学院には、地方公共団体や民間企業等に勤務しながら、政策立案や企画能力の向上、知識のブラッシュアップ等のために学んでいる社会人学生が多く在籍しています。

仕事と学業の両立を実現し、日々、成長を続けている社会人学生の皆さんを紹介します。



## 地方自治体職員

柴田 亮太 宮城県出身(平成30年度入学・令和元年度修了)



### 東北大公共政策大学院を選んだ理由

私は、東日本大震災直後の平成23年4月に宮城県に採用され、以後6年間は災害復旧・復興をメインに行う部署で業務に携わってきました。そして7年目になり震災の影響も落ち着いてきた中で、自分自身が「大きな変化」に対応できる職員へ成長をしているのか考えるようになり、それが大学院進学の動機となっています。

人口減少という戦後経験したことのない時代に突入する地方は、持続可能な社会を創るためあらゆる知恵を絞らなければなりません。東北大学公共政策大学院は、公共政策ワークショップを通して、東北地方をメインのフィールドに様々な社会課題に対してアプローチをしています。行政の経験と大学の知的資源を用いて、地域の存在を見つめ直し、新時代を切り開ける力を身につけるために本大学院を選びました。

### 仕事との両立について

私は課程1年目にあたる年度で、宮城県の条例に基づく「自己啓発休業制度」を活用していました。それにより1年生の時は大学院での学習に集中して取り組むこととし、修了に必要な48単位のうち40単位を取得しました。2年生からは職場へと復帰しフルタイムで業務を行いながら、リサーチペーパーの作成を行いました。東北大学公共政策大学院では土曜日開講の授業や集中講義も多くあるので、2年目にもう少し取得する単位を振り分けることも十分可能だと思います。

### 大学院で学んだことを活かして

公務員の仕事は前例を踏襲しているだけでとりあえずこなせてしまう部分があります。しかし人口が減少し様々な環境の変化にさらされることが確定的である今後の時代は、現状維持は衰退と同義であると考えます。大学院での学びをとおして養った広く深い視野により、日々の業務の中で「問題点がどこにあるのか」「課題をどのように設定するのか」「その実現手法が効率的なのか」を考え、住民の幸福を実現するための政策を創っていきたいと考えております。

## 1週間のスケジュール

### 2018年前期

|     | 月                            | 火                                                         | 水 | 木                       | 金                | 土                |
|-----|------------------------------|-----------------------------------------------------------|---|-------------------------|------------------|------------------|
| 1時限 |                              |                                                           |   | 【講義】<br>地域社会と<br>公共政策論I |                  |                  |
| 2時限 |                              |                                                           |   |                         | 【講義】公共政策<br>基礎理論 |                  |
| 3時限 |                              |                                                           |   |                         |                  | 【講義】<br>公共政策特論II |
| 4時限 |                              | 【公共政策<br>ワークショップ】<br>人口減少社会に<br>対応した<br>まちづくり法制に<br>関する研究 |   | 【講義】<br>政策体系論<br>政策実務A  |                  |                  |
| 5時限 | 【講義】<br>政策調査と<br>論文作成の<br>基礎 |                                                           |   |                         |                  |                  |
| 6時限 |                              |                                                           |   |                         |                  |                  |

|          |       |             |             |
|----------|-------|-------------|-------------|
| 集中<br>講義 | 政策評価論 | 政策分析の<br>手法 | 格差社会と<br>経済 |
|----------|-------|-------------|-------------|

### 2018年後期

|     | 月              | 火                                                         | 水             | 木 | 金 | 土                                |
|-----|----------------|-----------------------------------------------------------|---------------|---|---|----------------------------------|
| 1時限 |                |                                                           |               |   |   |                                  |
| 2時限 |                |                                                           |               |   |   |                                  |
| 3時限 | 【講義】<br>社会福祉政策 | 【公共政策<br>ワークショップ】<br>人口減少社会に<br>対応した<br>まちづくり法制に<br>関する研究 |               |   |   | 【講義】<br>公共政策特論II<br>経済産業政策<br>特論 |
| 4時限 | 【講義】<br>経済学理論  |                                                           | 【講義】<br>地方自治法 |   |   |                                  |
| 5時限 |                |                                                           |               |   |   |                                  |
| 6時限 |                |                                                           |               |   |   |                                  |



## 団体職員

### 猪股 佳那子

宮城県出身  
(平成31年度入学)



## 東北大公共政策大学院を選んだ理由

現在、大学の国際関連部署で勤務しています。普段の勤務では、国ごとに違う教育システムや法制度、周囲を取り巻く環境の急速な変化等に対応する必要があり、前例踏襲では立ちいかない場面が多々出てきます。もっと世の中の動きについて学んでいかなければ、半ば焦りにも似た思いに駆られていました。東北大学の公共政策大学院では、政策形成に関する実務的な授業と学術的な内容の授業とを同時並行で体系的に履修できるカリキュラムが組まれており、そこに魅力を感じ入学することを決めました。もちろん、長期履修制度により、フルタイム勤務を続けながら通学できるという点も重要なポイントでした。

## 仕事との両立の状況

長期履修制度を利用し、3年間での修了を目指しています。1年次で必修のWSⅠは有給休暇を使い、その他の授業は勤務を終えた18時以降や休日に、無理のない範囲で履修しました。勤務先のリフレッシュ休暇制度を活用し、台湾への海外調査にも参加することができました。

## 現在の学習内容

2年目である今年度は、基幹科目の授業履修を中心に進めていく予定です。また、リサーチペーパー作成に向けて、調査研究の方法や分析の方法論など、自ら設定した研究課題を追究するための基礎を養う一年にしたいです。

## 今後の抱負

高等教育政策に関わる研究や学習を通して、大学運営について学術的な視座を身に付けたいです。また、先生方や同級生との議論により、論理的な思考を身に付けることも目標の一つです。今後も、大学院で得た知識や経験を実際の業務に活用することを見越しながら、主体的に学習に取り組んでいきたいです。



## 1週間のスケジュール

2019年前期

|     | 月  | 火                                                            | 水  | 木  | 金  | 土                   |
|-----|----|--------------------------------------------------------------|----|----|----|---------------------|
| 1時限 |    | 勤務                                                           |    |    |    |                     |
| 2時限 |    |                                                              |    |    |    |                     |
| 3時限 | 勤務 | 【公共政策ワークショップ】<br>農林水産物輸出促進と<br>インバウンド農泊<br>による農山漁村<br>振興策の検討 | 勤務 | 勤務 | 勤務 | 【講義】<br>公共政策<br>特論Ⅰ |
| 4時限 |    |                                                              |    |    |    |                     |
| 5時限 |    |                                                              |    |    |    |                     |
| 6時限 |    |                                                              |    |    |    |                     |

2020年前期

|     | 月                            | 火                      | 水           | 木  | 金  | 土 |
|-----|------------------------------|------------------------|-------------|----|----|---|
| 1時限 |                              |                        |             |    |    |   |
| 2時限 |                              |                        |             |    |    |   |
| 3時限 |                              |                        | 【講義】<br>防災法 | 勤務 | 勤務 |   |
| 4時限 | 【講義】<br>政策調査と<br>論文作成の<br>基礎 | 【講義】<br>日本政治<br>外交史演習Ⅰ |             |    |    |   |
| 5時限 |                              |                        |             |    |    |   |
| 6時限 |                              |                        |             |    |    |   |

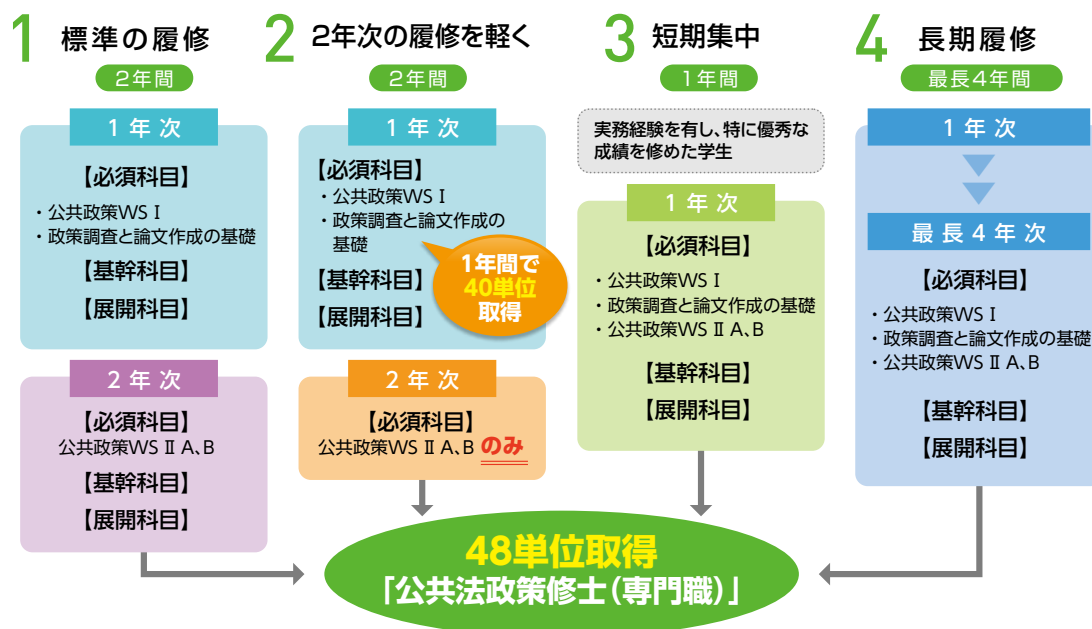
このほかオンデマンドで授業を履修しています

他にも、市議会議員、町議会議員、国家公務員、市役所職員、民間企業社員、大学職員、NPO職員として働きながら又は休職して、当大学院で学んでいる学生の皆さんがいます。

# 社会人学生の履修モデル



東北大学公共政策大学院では、学業と仕事を両立できるよう、社会人学生向けに複数の履修コースを用意しています。2年間での修了のほか、最短で1年、最長で4年での修了が可能です。



**1 標準の履修** (2年間) 2年間で48単位を取得し修了します。

**2 2年次の履修を軽く** (2年間) 公共政策WS II 以外の40単位を1年次に集中的に取得します。2年次は、仕事の状況に応じて通学・メール等で担当教員の指導を受け、公共政策WS II の8単位を取得し修了します。

**3 短期集中** (1年間) 修了に必要な48単位を1年間で取得し修了します。公共政策に関する3年以上の実務経験がある学生を対象にしたもので、優秀な成績を修めた場合に修了が認められます。

**4 長期履修** (最長4年間) 履修年限を最長4年間まで設定できます。授業料の支払総額は、標準履修(2年間)の場合と同額に設定されています。

## ！ 地方公務員の方へ ～「自己啓発等休業制度」のご確認を～

地方公務員法には、条例に基づき職員が大学等課程の履修のために休業することができる「自己啓発等休業制度」の規定があります。休業期間中の給与は不支給ですが、学業に専念できます。条例が制定されている場合、一般的には、以下のような名称・内容になっています。

☑「職員の自己啓発等休業に関する条例」といった名称の条例

☑大学院も履修先として規定

☑休業期間は原則2年間

是非、ご所属先の条例の有無、内容についてご確認ください。

## 座談会 公共政策を学んで

この座談会は、2020年5月2日、全国的な新型コロナ騒動の中、教員の呼びかけに応じて有志で集まった2年生6名が1年余りの東北大学公共政策大学院での経験をオンラインで語り合ったものです。

**三宅:** 東北大学公共政策大学院への志望理由を教えてください。

**佐藤:** 公共性の高い仕事に就くことを目指しており、ワークショップを主とした教育や研究を通して、自分で実際に政策を提言することに関心を持ちました。修了後に社会にどうやって貢献したいかという方向性も定まってきたので、すごくいい経験になっています。

### 現場からその状況を変える政策まで持って行く過程を学びたい(渡部)

**渡部:** 私は学部が看護で、特に働いている世代の健康増進に関心を持っています。この世代は病院にも来ないし、企業のなかにいる産業保健師の対象になるんですが、その個人を取り巻いている労働環境などの課題を解決したいと思いました。現場からその状況を変える政策まで持って行く過程を学びたいと思い、公共政策大学院を選びました。

**三宅:** 自分は法学部出身なのですが、このまま社会に出ても、社会を法学部的な観点からしか見ることが出来ないのではないかと思います。経済や政治学などいろいろな観点から社会を見たいと思い、大学院に進学しました。なぜ東北大学かというと、ワークショップの存在が大きく、いろいろな方の意見を聞きながら研究出来る環境に惹かれました。

### 今後の日本社会が抱える様々な課題が顕著な地域で、政策について考えることが出来る環境も魅力的(高倉)

**高倉:** ワークショップを通じて、実践的に政策の企画や立案に関わるスキルを身に付けたかったからです。東北地方という、今後の日本社会が抱える様々な課題が顕著な地域で、ヒアリングをしながら政策について考えることが出来る環境も魅力的だと思います。

**山本:** 私は教養学部出身で、学術的な専門性を持たないまま社会に出る事に違和感を持つようになり、大学院進学を決意しました。特に法学をバックグラウンドに、社会に対して何らかの解を提示することが出来る公共政策に魅力を感じました。

**天野:** これまで30年くらい楽しく働いてきたのですが、社会も激変しており、感覚的に「国はダメだ」と言うのではなく、正確なことをきちんと

知り、社会の新しい仕組み作りに直結するような仕事をやっていきたいと考えました。また、30年前に東北大学の学生として非常に楽しい思いをさせていただいた東北地方に恩返しをしたいと思ったんです。今の東北地方の地域課題を学び、ネットワークを改めて作って、何か地域に貢献するビジネスをしたいと考えて通っています。

**三宅:** 今のお話にもありましたが、ワークショップはこの大学院の大きな特徴です。それぞれがやってきたワークショップの内容と感想をお願いします。

### 先生やメンバーの多様な意見を受け入れ、それぞれが個性を発揮して自分の研究ができるようサポートする経験を通して、サーバント・リーダーシップを学びました。(佐藤)

**佐藤:** ワークショップAは「人口減少社会における地方行政のあり方」について、研究対象を秋田県に定めて調査・研究しました。政策提言として、ICTを取り入れた行政・医療機関の取り組みや、自家用有償旅客運送の拡大、クラウドファンディング型ふるさと納税を活用した起業支援・地域課題の解決、企業版関係人口の拡大に向けた補助制度・デュアルスクールの導入などを発表しました。データ分析と地域の実情に即した政策提言をすることができたと感じます。この1年間で様々な力を身につけることが出来ました。自分の意見に固執することなく、先生やメンバーの多様な意見を受け入れ、各メンバーが個性を発揮して自分のやりたい研究ができるようにサポートする経験を通して、サーバント・リーダーシップを学びました。また、これまではあまり目を向けて来なかった、国内の問題・課題を解決していきたいという思いが強くなりました。

**渡部:** ワークショップBは、仙台市の次期総合計画の制度的、実証的研究でした。行政が作る総合計画というものの意義から考え、人口減少が予測されていくなかで、どういうものが仙台市に必要なかを1年間考えました。最終的に、市民が地域づくりに携わっていくため、行政と市民が目標を共有するためのツールということで、区のレベルから計画を作るところまで積み上げていこうという提言になりました。私自身が行

### 参加者



佐藤 沙栄

北海道出身  
新潟県立大学出身  
(平成31年度ワークショップA所属)



三宅 亮

東京都出身  
早稲田大学出身  
(平成31年度ワークショップB所属)



渡部 歩美

宮城県出身  
東北大学出身  
(平成31年度ワークショップB所属)



高倉 颯太

東京都出身  
早稲田大学出身  
(平成31年度ワークショップC所属)



山本 麻莉絵

北海道出身  
国際基督教大学出身  
(平成31年度ワークショップC所属)



天野 桂介

静岡県出身  
東北大学出身  
(平成31年度ワークショップD所属)



政に関する知識がないところから始まったので、力不足を痛感しました。前提の知識がないことや、知識の差がメンバー間にもあり、見ている範囲や角度の違いが大きく、全然違うバックグラウンドを持つ人とのワークショップ、話し合いで作っていくことの大変さは、苦労したところではあります。大変でしたが、そこをどう作り上げていくか体験出来たことは、財産になると思っています。

**高倉:**ワークショップCは「農林水産物の輸出促進とインバウンド農泊による農山漁村振興策の研究」という、経済外交と地域振興という2つの分野が重なり合うようなテーマでした。様々な場所でヒアリング調査を行い、国内なら中央省庁、地方機関、あるいは行政機関以外の生産者団体や実際の農村の方々にお話を伺いました。また、二つのチームに分かれて台湾とベトナムにも行き、現地の団体や企業に対してもヒアリング調査を行いました。

**日本では当たり前だと思っているシステムや常識が海外では異なることや、自分の尺度の判断は通用しないということも学べました。(山本)**

**山本:**海外でのヒアリングのアポ取りなども、全部自分たちでしっかり準備して行くのですが、日本だったらあり得ないようなこともありました。アポ先にその担当者の方がいらっしゃらなかったり、1週間前に急にホテルの予約を一方的にキャンセルされたり(笑)。日本では当たり前だと思っているシステムや常識が海外では異なるということや、自分が思っている尺度の判断は通用しないということも学べたのは、ワークショップCの特徴ではないかと思います。

**天野:**いつもワークショップをやっていると、Cの部屋ってすごく賑やかというか、笑い声とか一番激しかった記憶があるんですけど、何の話で盛り上がっていたんですか？

**山本:**価値観や考え方が違うメンバーが揃い、みんな話ののすごく好きなグループだったので、それが議論の活性化に繋がったり、はたまた議論が割れてしまって、イザコザとまでは言わないですけど、賑やかになっていました。積極的に会話するチームだったと思います。

**自分の子どもの世代と一緒に課題に取り組むためには、自分のコミュニケーション自体も抜本的に見直さざるを得ず、私自身も相当鍛えられました。(天野)**

**天野:**ワークショップDは「SDGsの実現を目指した協働プロジェクトを企画する」というテーマでした。国連が中心になって全世界で進めていますが、私たちが今後もずっと、世代を越えても生き続けられるようにするにはどうしたらいいかということ、大学院生として実践していこうというテーマでした。座学や政策・理論よりも、とにかく出かけて、見て、聞いて、行動してみようという指導で、大学院の研究としては相当変わった内容ですが面白かったですね。行政や企業、NPOなど数十団体の活動を見聞きて、その実践活動をしました。フードバンクの現場に出向いたメンバーは、一緒に作業しながらどうしたらこの活動が持続可能なものになるのかを一生懸命考えていました。私は52歳なんですけど、同級生が自分の子どもの世代なんです。その方々とフラットに一緒に課題に取り組むというのが、私にとってはすごく意義がありました。30歳年下の同級生と一緒に取り組むためには、自分のコミュニケーション自体も改革というか、抜本的に見直さざるを得ません。そういう意味で私自身も相当鍛えられました。

**圧倒的な経験量と知識量があり、行政の運営の仕方や、自治体の実態についてもよくご存知だったので、本当に勉強になりました。(佐藤)**

**三宅:**逆に学生目線から、社会人のかたと一緒にワークする意義などについて、感じ方はありますか？

**佐藤:**本当に勉強になりました。公務員のかたがおり、圧倒的な経験量と知識量があって、行政の運営の仕方や、自治体の実態についてもよくご存知だったので、たくさん知見をいただきました。それを研究に活かすことが出来て、ありがたかったです。

**三宅:**次は「印象に残っている授業」について教えてください。

**高倉:**「政策調査と論文作成の基礎」は、データの扱い方、文献調査の手法、ヒアリング調査の手法、プレゼンテーションの手法といった、公共政策の担い手になる基礎的なスキルを、包括的に身に付けることが出来ます。

**渡部:**私は理系出身だったので、公共政策大学院の講義やワークショップについて行けるのか、レポートを書けるのかなど不安でした。この政策調査の講義で、論文の書き方はもちろん、法律の条文の読み方や調べ方についても細かく教えて貰えて助かりました。理系の出身で入学を悩んでいる人も、その点は安心していいのではないかと思います。

**高倉:**公共政策全般に関わる授業以外にも、各政策分野の具体的な知識や考え方を身に付けていく授業もあります。例えば、自分は農林水産政策演習という授業を取り、実務に携わるゲストスピーカーからお話を聞くこともできました。

**三宅:**実務からの視点を重視している最たる授業として、公共政策特論というのがあります。この授業では、各省庁から行政官にお越しいただき、担当した政策立案について様々なお話を伺うことができました。キャッシュレスやMaaSなどの最近話題のトピックに関する疑問を率直にぶつけることもできるので、楽しい授業でした。

**三宅:**この1年間の仙台での暮らしやキャンパスライフはどうでしたか？

**佐藤:**仙台はコンパクトシティで、市街地に行けば何でも揃っているのありがたいですね。地元の北海道は車社会なので、徒歩圏内で片平キャンパスからあちこち行けるのは魅力ですし、街歩きも楽しいですよ。

**自習室が24時間開放されていて好きな時間に使えるので、学習環境はとても整っています。(山本)**

**山本:**キャンパスまで徒歩1分の寮に住んでいるので、とても恵まれた環境で学習しているなと感じています。自習室が24時間開放されていて好きな時間に使えるので、学習環境としてはとても整っています。日常生活でも学生生活でも、初めて仙台に来て身構えるようなことは、特になかったですね。

**東京に5日いて仙台に2日いるという状態は、仕事でも学ぶうえでも非常にバランスがいいんです。(天野)**

**天野:**私は自宅が東京にあって、普段東京で仕事をしていて、週2日通学しています。

**三宅:**大変じゃないですか？

**天野:**よくそう言われるんですが、東京に5日いて、仙台に2日いるという状態は、仕事でも学ぶうえでも非常にバランスがいいんです。仙台に行かない日で何とか仕事をまとめ上げようと頑張るので、仕事の密度がとても上がっていますし、仙台に来たらここは勉強するところなんだと思うから、とても集中出来ます。そしてこの自然の素晴らしさ。30年前の川内キャンパスではなんでこんな街はすげえなんだと思ってましたが、今はこの環境で学生生活を送れることを素晴らしいと思っています。

**三宅:**大学院修了後のビジョンや、今後の抱負はいかがでしょうか。

**佐藤:**この大学院で培った経験やワークショップの経験を糧にして、大局的に政策を形成していけたらと。ワークショップで現場を見て、現場に寄り添った政策を経験してきたので、それを活かして就職に向かって行きたいと思います。

**渡部:**学部で培ってきた看護の専門性と、公共政策大学院で学んだ政策立案に関わる知識を活かして、現場と政策を繋げられるような公務員になりたいと考えています。

**クリエイティブに政策立案やアイデアを出したり、考えを発信していくことに特化した職業に就きたい。(高倉)**

**高倉:**公共政策に携わりたいという想いを元々持っていたんですけど、いろいろな形があるじゃないですか。公務員としてだけでなく、民間企業で違った形で公共政策に携わるという手もあるなと思いました。ワークショップなどを通していろいろな体験をしていくなかで、自分が何に向いているのかがある程度明確になったことが、すごく良かったと思っています。クリエイティブに政策立案やアイデアを出したり、考えをどんどん発信していくことに特化したような職業に就きたいなと思っています。

**天野:**私は東北地域に大きく貢献できる仕掛けを、大学院にいる間に作っていきたくと思っています。長期履修を認めて貰って入学したので、合計4年間。あと3年、ゆったりした感じでやらせていただきます。

**福祉分野なら三宅に聞けばわかるだろうと言われるような、そのくらい極めて卒業したい。(三宅)**

**三宅:**自分はリサーチペーパーで、福祉分野をテーマに1本書こうと思っていますんですけど、将来どこかの組織に入っても、福祉分野については三宅に聞けばわかるだろうと言われるような、そのくらい極めたうえで卒業したいと考えています。

**天野:**私も介護と医療でビジネスに絡んでいるので、ぜひお世話になれば。何かあったら三宅さんのところに聞きに行くので、ぜひよろしく。

**三宅:**あの、すいません。勘弁してください(笑)。

**三宅:**それでは最後に、入学を考えているかたにメッセージをお願いします。

**佐藤:**大学院には本当にいろいろなバックグラウンドを持ったかたがたくさんいるので、そういった多様な価値観を持った、多様な背景を持った人との学びを楽しんで貰えたらいいかなと思います。

**渡部:**入学を検討されている方の中に、理系学部、法律とか公共政策などに関係のない学部の方がいらっしゃったら、そういう方でも先生方のサポートなり、基礎的な授業もあるので大丈夫だよということをまずお伝えしたいと思います。私のような看護という医療系の、かなり専門性に特化したところから来た人間でも、何だかんだで1年間学んでいろいろ得られたものがあったので、安心していいんじゃないかなと思います。また、この大学院で様々な価値観の人とどう向き合っていくか、どうやってその意見に対応していくか、公共的な物事に関心のある人やディスカッションが好きな人には、東北大学公共政策大学院はいい環境なのではないかと思っています。

**高倉:**人口減少・少子高齢化、経済・社会のグローバル化とその反動、目まぐるしい技術革新といった社会の大きな変化の中で、解決しなければならない政策課題が日々山積していると思います。最近では、新型コロナウイルスが世間を騒がせていますが、普段の生活の中でも、公共政策について意識することが多いのではないかと思います。この大学院は、自分自身が当事者になって政策課題の解決に携わりたいという志を持った人にとっては最適な環境だと思っています。激動の時代の中で、新しい社会の構築の舵取りに直接貢献したいという志を持つ

た方々のご入学を心よりお待ちしております。

**山本:**これからは、社会のグローバル化や自国第一主義、IT化など複雑化する社会のなかで、自分なりの社会に対するポジションの取り方がすごく重要になってくるんじゃないかと思っています。社会がどうなるかわからないことで不安になってしまう人も、自分も含めて多いのかなと思うなかで、いろいろな観点からどうい問題が社会に山積しているのかということを体系的に学べるこの環境で、社会に対する解像度を上げることが出来るんじゃないかと思っています。アカデミックな学びだけでなく、そういったより実践的な、社会で生きるうえで重要なスキルを磨くことが出来る環境だと思っていますので、ぜひこのパンフレットを手にとられているみなさんには本大学院への入学をご検討いただければと思います。



**天野:**私と年代の、40・50代でいろいろ考えている方に向けたメッセージを。社会に出て20年なり30年なり、いろんな経験を積んで改めてミクロ経済学とか聞くと、凄くよくわかるんですよ。経験を踏まえて改めて学ぶと、吸収力がもの凄く高いというか。本当に入学して良かったと思っています。しかも東北大学も仙台も、学ぶという意味では抜群にいい環境だと思います。それに30年前に比べると教授陣が親切なんですよ(一同笑)。ぜひ私くらいの年齢の方で、悶々と「学びたい」と思っている方がいらっしゃったら、ぜひ!入学なさったらいいと思います。

**社会で生きるうえでいろいろ重要なスキルを磨くことが出来る場所です。(三宅)**

**三宅:**どうもありがとうございます。本大学院では、ワークショップ活動などで、先ほど話のあった仮説検証とか、そういった企画立案、提案能力を確立して、社会で生きるうえでいろいろ重要なスキルを磨くことが出来る場所だと考えています。加えてこの大学院では、現場で活躍している第一線級の方々とお会いする機会も数多くあるため、進路にかかわる数多くの選択肢を見つけることが出来るんじゃないかと考えています。ぜひ本大学院に入学していただいて、社会で力を発揮する準備をしていただければと思います。

**令和2年度の  
入学者の内訳は次のとおりとなっています。**

- 学部卒業後入学 21名
  - 地方公共団体職員 2名
  - 民間企業職員 5名
  - 地方議会議員 1名
  - 法人職員 1名
- 合計30名

# さまざまなフィールドで活躍する修了生

## 人生を変える 出会いがありました

### 国家公務員

近藤 光

(平成18年度修了)

国土交通省土地・建設産業局企画課

神奈川県出身、慶應義塾大学法学部卒業



修了から13年が経ちましたが、先生方や友人たちと過ごした仙台での日々は今も鮮明で、時に自分を励ましてくれています。この院の最大の特徴は、実務にも貢献される研究者教員の方と、行政実務経験豊富な実務家教員の方の協働により施される超実践的な訓練を、後に戦友とも思える同期の仲間たちと切磋琢磨して乗り越える濃密な2年間を過ごせることです。その2年間での出会いがすべて今につながっていると感じます。指導教官をして頂いた旧建設省出身で初代院長の生田長人先生からは、公務員時

代の経験談も交えて都市政策、土地政策の魅力を存分に教えて頂き、現在の職場を志望する契機を頂きました。現在私は、土地政策に関する基本法の30年ぶりの改正を担当しており、先生がかつて心血を注いだ仕事に、時を経て実際に関われたことに感慨を抱いています。また、驚くべきことに、当時ご指導頂いた研究者教員、実務家教員の方お2人に、現在の業務においても、直接ご指導を頂いています。修了から10年以上経った今、改めてこの院の価値を心から実感しています。

## 答えのない課題に とことん向き合う

### 民間企業

平林 穂奈美

(平成28年度修了)

野村證券株式会社法務部法務一課

京都府出身、関西学院大学国際学部卒業



大学卒業後、大学の同期のほとんどが社会人になる中、大学院に進学することはとても勇気のいる決断でした。しかし、東北大学の公共政策大学院では、2年先に社会人経験を積んでいる同期に劣らない経験を得ることができ、とても意義のある2年間であったと確信しています。

特に、1年次の「公共政策ワークショップ」では、研究者教員と実務家教員の指導の下、様々な分野の学問を学んできた仲間と共に、1年間、1つの政策課題に向き合います。

1つの政策課題について、文献調査、議論を何度も行い、

仮説を立て、国内に限らず、海外にも足を運び、現場の政策担当者

と意見交換を行う。そして、理論と実践の間に立つ私たちだからこそ提示できる解決策を考え抜きました。

社会人になり、答えのない課題に向き合う毎日ですが、本学で得た「考え抜く力」は、現在の仕事に生きていると痛感しています。

# さまざまなフィールドで活躍する修了生

## ひたすらに調べ考えた2年間

### 地方公務員

#### 石垣 友香子

(平成29年度修了)

仙台市役所 青葉区保健福祉センター 保育給付課  
仙台市出身、早稲田大学政治経済学部卒業



本年4月、仙台市では子育て家庭が抱える問題に様々な方面から対応・支援する「子育て家庭応援センター」が始動しました。入庁から3年目を迎える私も、本センターの設立に伴い改編された保育給付課で保育施設等の利用にかかる業務に日々邁進しています。

私は1年次の公共政策ワークショップで仙台市の教育、2年次で同市の子供の貧困問題についての研究・政策提言を行いました。実際に現場で仕事をすると、そのときには気付かなかった課題がたくさん見えてきます。そういった課題に直面したとき、私は相談に来られた方へ詳細に聞き取りを行い、場合によっては他の部署と連携して対応

を行うよう心がけています。これらの方法はすべて2年間のワークショップのなかで実施したヒアリングや政策の立案を通して身につけたものです。

本学で身につけた様々な方面から情報を集める力や、一見無関係に見える数々の事象をリンクさせながら考える力は、複数の部署が一体となって子育て家庭を支援する現在の仕事に不可欠なものです。ひたすらに「調べては考える」を繰り返す2年間は、皆さまにとってもかけがえのない経験と力になると信じています。

## 可能性を広げる「学びと発見」の運動場

### 国家公務員

#### 門脇 豊和

(令和元年度修了)

林野庁林政部林政課  
山形県出身、福島大学行政政策学類卒業



まさか自分が国家公務員になる…!?とは、入学当初は想像もしていませんでした。地方に強いこだわりを持つ私が、中央官庁から地方にアプローチしてみようと思ったのは、大学院で受けた多くの刺激がきっかけです。まだ見ぬ自分の可能性を広げる多くの学び・発見をダイナミックに得られる、それが東北大学公共政策大学院の大きな魅力です。

東北公共の面白さは、知の運動場、つまり頭だけではなく身体を使って社会問題を考えられる環境にあると思います。学生と先生方の距離が非常に近いこと、双方が情熱的に問題解決に取り組む雰囲気は、自然と自分の中にある問題意識や可能性にも火を付けてくれるはずです。

私は就職活動のため1年長く在籍しましたが、粘り強く戦えた

のは、私自身の可能性を常に教えてくれた先生方と、共に支え合った学友たちがいたからです。まさに東北公共での学びと発見が、大きなチャレンジへ導いてくれたように思います。

東北公共の門戸は非常に広く懐も深いです。ぜひ、学都・仙台で刺激に満ち溢れた日々を送ってみませんか？

# 就職・進路関係

東北大学公共政策大学院で学ぶことによって、どのような将来が拓かれるでしょうか。

## 政策プロフェッショナルを目指す人

### 現在

国家・地方・国際公務員を志望している。

既に公務員試験に合格している人も

### 東北大学公共政策大学院(原則2年で修了)

- ワークショップで実務体験型学習
- 公共政策の最先端理論の体系的学習
- 政策プロフェッショナルに必要な調査・レポート・ディスカッション・プレゼンテーションなどの技法の修得
- 実務家教員による公務員志望者に対する指導

在学中に公務員試験合格

### 将来

- ◆ 国家・地方・国際公務員

## 進路の幅を広げたい人

### 現在

学部で学んでいる内容だけでは自分の希望する将来の道が見えて来ないと感じている。

### 東北大学公共政策大学院(原則2年で修了)

- ワークショップの実務訓練を通して自分の進むべき道を固める
- 自分の進路に必要な基礎から最先端までの理論の学習
- 政策プロフェッショナルや企業マネジメントに必要な調査・レポート・ディスカッション・プレゼンテーション等の技法の修得
- 指導教員によるきめ細かな進路指導

在学中に公務員試験、民間企業の就職試験などに合格

### 将来

- ◆ 国家・地方・国際公務員
- ◆ NPO・シンクタンクの政策スタッフ
- ◆ ジャーナリスト ◆ 民間企業のマネジメント
- ◆ 博士課程に進学

## 社会人として一段階上を目指す人

### 現在

中央・地方官庁などの職員、地方議会議員等として働きながら“政策プロフェッショナル”としての知識・技法を身につけたいと考えている。

### 東北大学公共政策大学院 (1年もしくは2年で修了、長期履修(上限4年)で修了)

- ワークショップを通じてこれまでの実務体験を見つめ直す
- 公共政策の最先端理論の集中的・体系的学習
- 政策プロフェッショナルに必要な最先端技法の修得
- 指導教員による個人指導の下でリサーチ・ペーパー作成

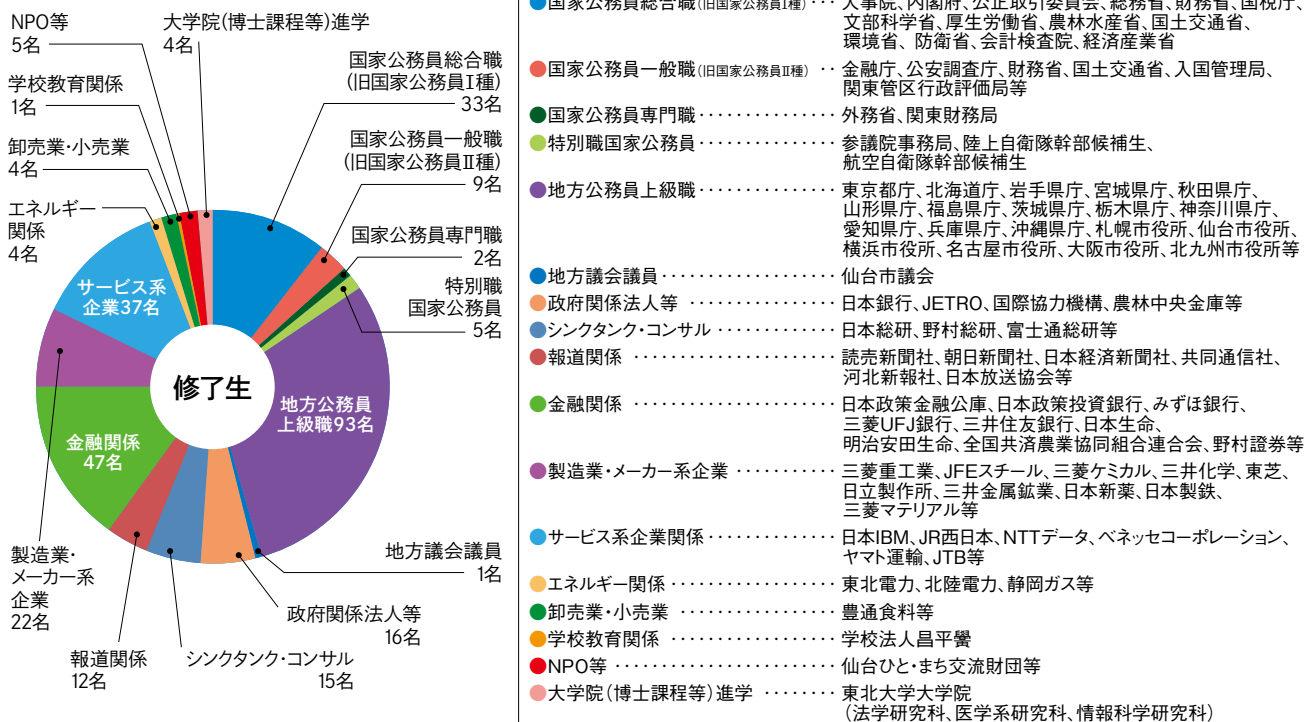
### 将来

- ◆ 元の職場に復帰してキャリア・アップ
- ◆ 別の職へ飛躍

修了生の就職先・進路としては、中央省庁・地方自治体等の幹部候補生、国際公務員のほか、ジャーナリストやシンクタンクのスタッフ等を念頭に置いています。

ワークショップ等を通じて獲得されるであろう、課題発見に始まり情報収集、解決策の作成検討に至る政策の企画立案に関する様々な能力は、社会人として実務に携わっていく上でまさに有用なものであり、多くの官公庁・企業等において高く評価されるものと考えています。

## 修了生の主な進路先



※なお、上記の中には、在学中に就職した者や、社会人として入学し、修了後に復職した者もいます。

# 勉強、研究をサポートする充実した施設

## 1 ワークショップ室

各ワークショップごとに、調査研究を進めるためのワークショップ室が与えられています。ワークショップ室は、24時間利用可能です。

所属メンバーは、毎週火曜日午後のワークショップの授業の際に集まって議論を行うだけでなく、いつでも集まり、議論し、資料を作成し、文献を研究することができます。



## 2 自習室

エクステンション教育棟内に自習室があり、学生は1人に一つの勉強用の机が与えられています。自習室は24時間利用可能です。



## 3 学生寄宿舍

留学生との共同生活を行うユニバーシティ・ハウス(写真)をはじめとした各種学生寄宿舍を、低額で利用することができます。



# 奨学金その他の各種支援制度



## 1 入学料・授業料免除

経済的理由により入学料を納付することが困難であると認められ、かつ、学業が優秀であると認められる方等については、選考の上、入学料の全額又は半額の免除が許可される制度があります。

また、経済的理由により授業料を納付することが困難であると認められ、かつ、学業成績が優秀であると認められる方等については、選考の上、授業料の全額、半額又は3分の1の額の免除が許可される制度があります。

これらのほか、入学料や授業料の徴収猶予の制度があります。

## 2 奨学金

当大学院の学生は、日本学生支援機構奨学金として、第1種奨学金(無利子)、第2種奨学金(有利子)を申請することができます。そのほか、各種奨学金(地方公共・民間奨学団体等)があります。

## 3 TA制度

一般入試において実施される小論文および口述試験の双方で特に優秀な評価を受けた入学者やそれに準ずる者には、1学年間、TA(ティーチングアシスタント)として、東北大学公共政策大学院における教育活動補助等に従事することで、一定の給与を支給される制度があります(年額80万円の予定)。

在学生  
から

## 充実した環境を支える制度

東京都出身  
早稲田大学 法学部卒業 三宅 亮 (平成31年度入学)

私が本大学院に進学した決め手は、ワークショップ等の学習環境に魅かれたただけではなく、経済的にそれを支えるTA制度があったからです。当初はTAの業務量を懸念していましたが、実際は学業に専念する時間も確保できました。また、急に都合が悪くなっても他のTA学生同士でカバーすることで、無理なく仕事をこなすことができました。奨学金とは違い、働くことが前提となる本制度ですが、様々な教授や授業内ゲストの方と話すきっかけにもなるため、大変有意義だと感じています。



# 入試関係情報

## 1 アドミッション・ポリシー

東北大学公共政策大学院が受け入れる学生像とは、「公共政策ワークショップ」をはじめとするカリキュラムによって、他の学生と切磋琢磨しながら自己の能力を一層涵養することのできる人物であり、具体的には以下の資質を持つ人物です。

- 学部で学んだ専門知識を基盤としつつ、公務及び公共政策の立案・制度設計について多角的な視点から学習する意欲と基礎的な能力を有すること。
- 討論・交渉・文章作成・プレゼンテーションなどコミュニケーション能力を豊かに持ち、集団作業に貢献できる適性を有すること。
- 公共性への情熱を持ち、公務に対し献身的な資質を有すること。

したがって入学試験では、特定の行政課題に関する基本的な理解とそれに基づき考察する能力を有していることを考査するとともに、「公共政策ワークショップ」において集団作業に積極的に参加する人物であることを面接で審査します。これによって、特定の学部の卒業生に偏ることなく、様々な学部の卒業生や社会人経験を持つ者から多様な学生の受け入れを進めます。

外国人留学生在が本学の教育プログラムに参加するには日本語能力試験N1で150点相当の日本語能力と日本の国内行政に関する大卒レベルの知識が求められます。

## 2 入学試験の概要

入学試験は、第1期募集、第2期募集、政策法務教育コース募集、内部進学者特別選抜の4回に分けて行われます。

- ※政策法務教育コースは、公共政策全般に関する実務に3年以上携わった方（例えば、地方議会議員や行政機関の職務経験者、社団法人・財団法人やNPO等において公共性の高い業務を経験された方）を対象としたものです。
- ※内部進学者特別選抜は、国家公務員をはじめとした公共性の高い職業を志す東北大学の優秀な在学学生を対象としたものです。

第1期募集及び第2期募集の入学試験は、提出書類、小論文及び口述試験の総合判定により行います。

政策法務教育コースの入学試験は、提出書類（スタディ・プラン等）及び口述試験の総合判定により行います。

内部進学者特別選抜は、提出書類（出願書身上書等）及び口述試験の総合判定により行います。

### ●小論文

小論文の問題は、現在の日本が直面している政策課題について受験生の理解度と見解を問うものとなります。受験生は、内政、経済、国際関係の3分野から出される問題のうち一つを選択して小論文を作成します。過去の問題は、東北大学公共政策大学院のウェブサイトに掲載されておりますので、事前チェックをお勧めします。

### ●口述試験

口述試験は、受験生の公共政策全般に対する姿勢、コミュニケーション能力、モチベーション等を総合的に判定するために行われます。

過去の小論文の問題は、東北大学公共政策大学院のウェブサイトを参照して下さい。



## 3 本年度の入学試験の日程・場所・出願方法

詳細は、各募集ごとの「令和3(2021)年度東北大学公共政策大学院学生募集要項」をご覧ください。

|              | 内部進学者特別選抜             | 第1期募集                 | 政策法務教育コース               | 第2期募集                     |
|--------------|-----------------------|-----------------------|-------------------------|---------------------------|
| 募集定員         | 合計30名                 |                       |                         |                           |
| 募集要項・出願書類の配布 | 7月上旬                  | 7月下旬                  | 9月上旬                    | 11月下旬                     |
| 出願受付         | 令和2年8月20日(木)～8月26日(水) | 令和2年9月10日(木)～9月16日(水) | 令和2年10月19日(月)～10月23日(金) | 令和2年12月22日(火)～令和3年1月4日(月) |
| 入学試験         | 令和2年9月5日(土)           | 令和2年10月3日(土)、10月4日(日) | 令和2年11月14日(土)           | 令和3年1月16日(土)              |
| 合格者発表        | 令和2年9月11日(金)          | 令和2年10月9日(金)          | 令和2年11月17日(火)           | 令和3年1月22日(金)              |

- 募集要項及び出願書類の用紙は、東北大学法学部・法学研究科専門職大学院系の窓口で配布します。また、郵便で取り寄せることもできます。
- 入学試験は東北大学片平キャンパスで実施します。
- 入試情報は、随時、東北大学公共政策大学院のウェブサイトに掲載されますので、ご参照ください。

入試情報は東北大学公共政策大学院のウェブサイトを参照して下さい。



<http://www.publicpolicy.law.tohoku.ac.jp/admission/>

## 入 試 説 明 会

仙台会場・オンライン開催

7/9(木)

オンライン開催

8/3(月)

オンライン開催

8/12(水)

オンライン開催

8/29(土)

川内キャンパス・オンライン開催 予定

9/7(月)

片平キャンパス・オンライン開催 予定

## オープンキャンパス

7/21(火)  
15:00~17:00

会場  
オンライン開催

## ワークショップI中間報告会見学会

8/12(水)  
9:20~18:00

会場  
片平キャンパス・  
オンライン開催 予定

## 政策法務教育コース「社会人向け進学相談会」

10/16(金)・10/17(土)

会場 片平キャンパス 予定

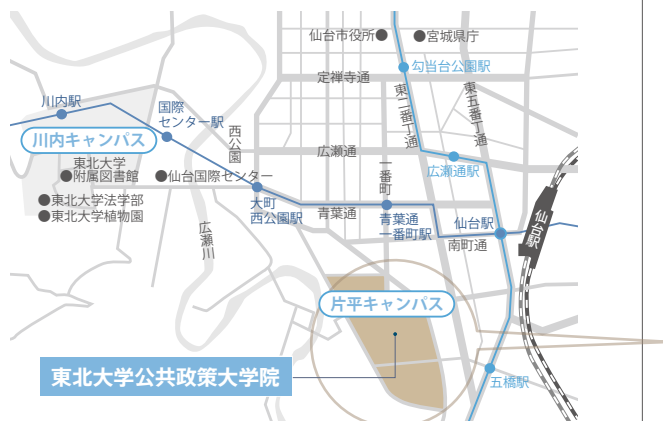
※上記の会場において、本大学院を知っていただくため、教員等による説明会を開催します。

開催場所・時間等の詳細は、東北大学公共政策大学院  
ウェブサイトでご確認ください。

<http://www.publicpolicy.law.tohoku.ac.jp/>



### ■ アクセスマップ



- ☐ 東京駅から仙台駅まで約90分
- ☐ JR仙台駅より徒歩15分
- ☐ 仙台市営地下鉄東西線青葉通一番町駅より徒歩7分

### ■ 片平キャンパス



# 東北大学公共政策大学院

〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1  
東北大学法学部・法学研究科専門職大学院係  
TEL. 022-217-4945  
E-mail [contact@publicpolicy.law.tohoku.ac.jp](mailto:contact@publicpolicy.law.tohoku.ac.jp)  
<http://www.publicpolicy.law.tohoku.ac.jp/>



このパンフレットは環境に配慮した「水なし印刷」により印刷しております。



環境にやさしい植物油インキ「VEGETABLE OIL INK」で印刷しております。